

公開実用 昭和64- 20891

JPU64-020891A; Published 1 February 1989; Robot Toy; Ugenkaisha Apple

⑯ 日本国特許庁(JP)

⑰ 実用新案出願公開

⑱ 公開実用新案公報(U)

昭64- 20891

⑤ Int. Cl.⁴

A 63 H 3/04
17/00

識別記号

庁内整理番号

A-6822-2C
C-6935-2C

③ 公開 昭和64年(1989)2月1日

審査請求 未請求 (全 頁)

④ 考案の名称 ロボットおもちゃ

① 実 願 昭62-114254

② 出 願 昭62(1987)7月25日

⑦ 考 案 者 小 林 俊 夫 千葉県流山市平和台1丁目12番地の5

⑧ 出 願 人 有限会社 あつふる 千葉県流山市鱈ヶ崎170番地

⑨ 代 理 人 弁理士 杉山 泰三

〔 実施例 〕

図に示す実施例は外表面の形がロボットの胴体とオートバイの前頭部を兼ねて表現した態様を呈する胴部材(1)の上端にロボットの頭体(2)を前後方向に起伏自在に軸承し、また胴部材(1)の後面にオートバイの遊転前輪(3)をホーク状部材(4)を介して起伏自在に軸承すると共に胴部材(1)の左右両側面に、外表面の形がロボットのもも部とオートバイのエンジン部を兼ねて表現した態様を呈し且つ中間位置に下向きから後向きの間に於て折曲可能な曲げ関節(5)を設けられた左右の大腿部材(6)(6)'を前後に揺動自在に軸承し、これ等左右大腿部材(6)(6)'の下端に内外方向に僅かに横移動可能および前向きから横外向きの間に於て回転可能とされた膝関節(7)を介して外

表面の形がロボットの胴部とオートバイのマフラー部を兼ねて表現した態様を呈する胴部材(8)(8)'を連結し、この胴部材(8)(8)'の下端に外表面の形がロボットの足部とオートバイの座席部を兼ねて表現した態様を呈する足部材(9)(9)'を連結軸(10)を介して前向きから後向きの間に於て回転可能に軸承し、連結軸(10)にオートバイの後輪(11)(11)'を回転自在に支承することによつてロボットの下部半分体およびオートバイの一方変形体(12)を構成する。

また、これとは別個に外表面の形がロボットの肩と乗用車の中間部を兼ねて表現した態様を呈する左右の肩部材(13)(13)'を芯部材(14)の左右両側に斜め上向きから下向きの間に於て揺振可能として軸承し、これ等左右肩部材(13)(13)'に左右

の肘関節(17)付き腕部材(18)(18')を球面ジャーナル
(19)を介して垂設すると共に芯部材(16)の前面両側
に左右一対の前向き張出杆(20)(20')を突設し、こ
の左右両側張出杆(20)(20')の先端にロボットの胸
部と乗用車の前方部を兼ねて表現した態様を呈
する胸部材(21)を上向きから下向きの間に於て揺
振可能として連結し、この胸部材(21)の左右両側
に乗用車の前輪(22)(22')を軸承すると共に芯部材
(16)の後面にエの字形の揺振部材(23)を上向きから
下向きの間に於て揺動可能として取付け、この
揺振部材(23)の先端に外表面の形がロボットの背
部と乗用車の後方部を兼ねて表現した態様を呈
する背部材(24)を取付軸(25)を介して上向きから下
向きの間に於て揺動可能として軸承し、取付軸
(25)に乗用車のルーフ部材(26)を起伏自在に支承す



ることによつて他方変形体(12)を構成する。

更に、他方変形体(12)に於て肩部材(13)(13')を横向きとし、腕部材(14)(14')を斜め下向きとし、胸部材(15)を下向きとし、揺振部材(16)および背部材(17)を斜め下向きとし且つルーフ部材(18)を斜め上向きとする(第1図および第2図参照)ことによつて頭通孔(19)を形成するようにすると共に芯部材(10)に於て頭通孔(19)の下方に位置する個所に上記の胴部材(11)の背面に設けられた受孔部(20)に抜挿自在な挿込突起(21)を設けたものである。

〔作用〕

本考案は上記のような構成であるので、第1図、第2図に於て実線で示すように、一方変形体(12)によりロボットの下方体(22)を、他方変形体(12)により上方体(23)を夫々形成したのち当該上方

体(3)を同図に於て仮想線で示すように下方体(2)に嵌着してロボットを完成したり、一方変形体(12)のみを利用して第3図に示すようなオートバイに変形したり、他方変形体(10)のみを利用して第4図に示すような乗用車に変形したりする遊戯に供するものである。

〔 考案の効果 〕

本考案は上記の通りであるので、上記の要望に応えるものであり、所期の目的を十分に達成する効果を有するものである。

図面の簡単な説明

図は本考案ロボットおもちゃの実施例を示すものであつて、第1図は全体の斜視図、第2図は第1図A-A線に沿う断面図、第3図はオー

トバイとした状態の斜視図、第4図は乗用車とした状態の斜視図である。

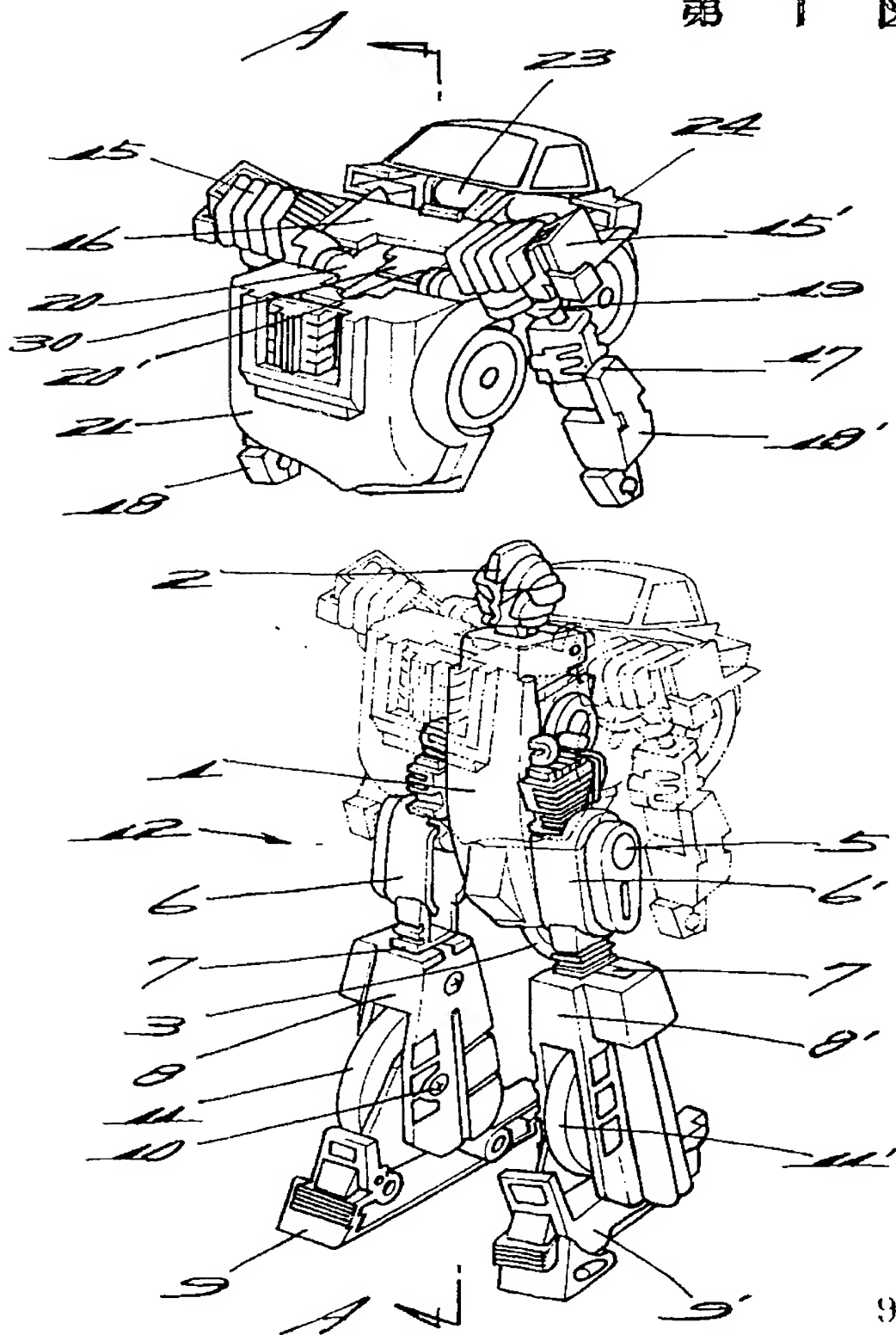
(1) … 胴部材、(2) … 頭体、(3) … 前輪、(4) … ホーク状部材、(5) … 曲げ関節、(6)(6)' … 大腿部材、(7) … 膝関節、(8)(8)' … 臍部材、(9)(9)' … 足部材、(10) … 連結軸、(11)(11)' … 後輪、(12) … 一方変形体、(15)(15)' … 肩部材、(16) … 芯部材、(17) … 肘関節、(18)(18)' … 腕部材、(19) … 球面ジャーナル、(20)(20)' … 張出杆、(21) … 胸部材、(22)(22)' … 前輪、(23) … 播振部材、(24) … 背部材、(25) … 取付軸、(26) … ルーフ部材、(27) … 他方変形体、(28) … 頭通孔、(29) … 受孔部、(30) … 挿込突起、(32) … 下方体、(33) … 上方体。

実用新案登録出願人 有限会社 あつぷる

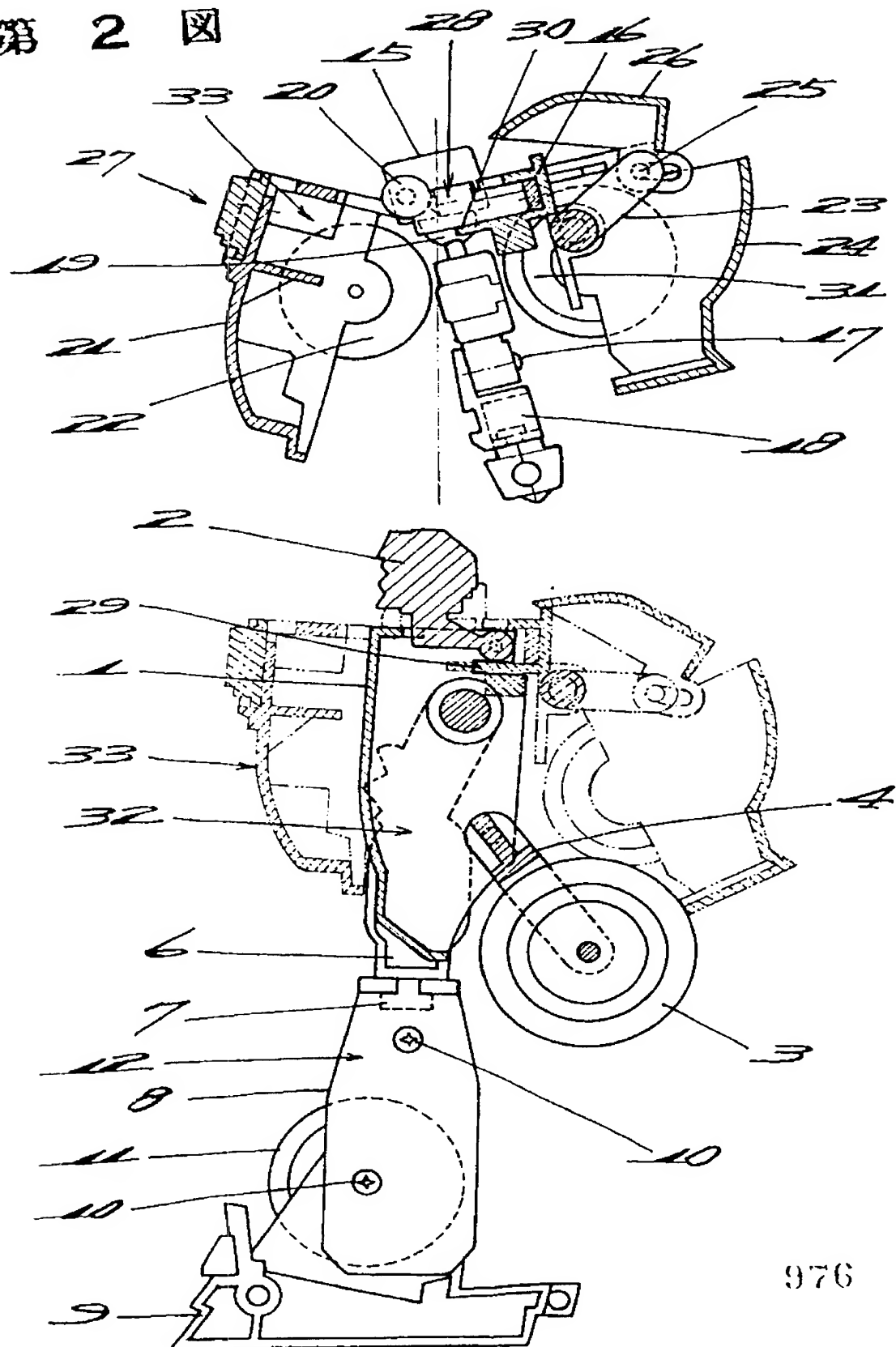
代理人 弁理士 杉 山 泰 三



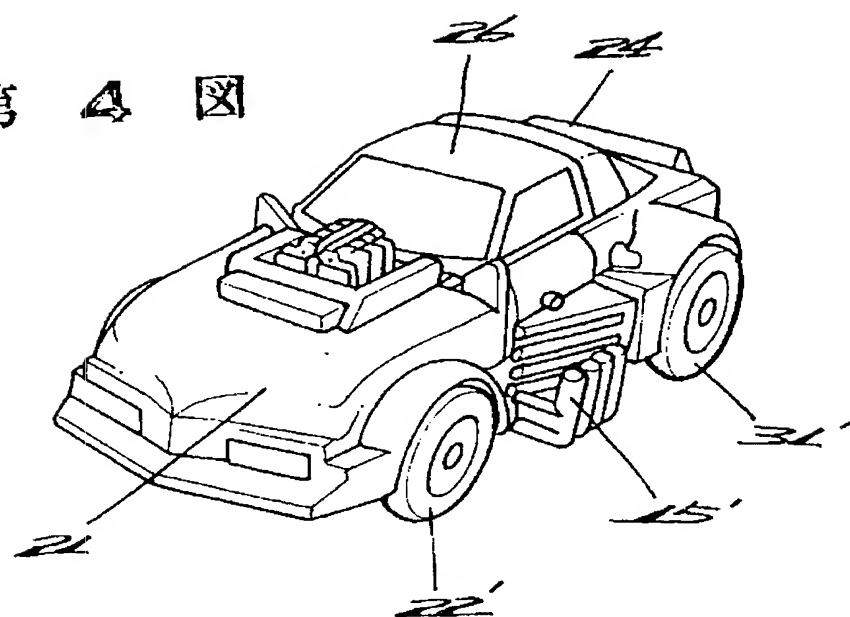
第 1 图



第 2 図



第 4 图



第 3 图

